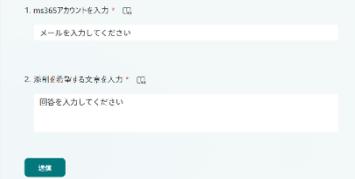
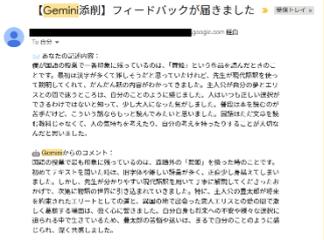


事例名			
生成AIを含む ICT を活用した添削指導に関する検討			
校種・学年	高等学校・3年		
教科・科目・単元・題材	国語科・国語表現		
学校名〈任意〉	京都府立東稜高等学校	事例報告者氏名〈任意〉	—
機能名 (アプリ名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生成 AI (Gemini) ・ アンケートアプリ (Forms) ・ RPA アプリ (Power Automate, Google App Script) ・ ログ管理アプリ (Google Sheets) 		
ICT 活用のポイント			
<p>国語科において、多数の生徒を対象とした添削指導を実施するのは容易ではない。一人ひとりの提出物を添削することには膨大な時間を要する。その上で得意即妙のアドバイスを行うとなれば、経験に裏打ちされた技量の習熟もまた必要となる。そこで、生成 AI をいわばサブティーチャーとして用いることで、これらの時間面及び技量面の課題の解決を図った。</p> <p>検討した設計は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① (生徒が、) Forms に添削を希望する文章を入力し、送信する。 ② Power Automate (PA) を用いて Google Sheets に Forms の応答内容を特定の列に転記する。 ③ Google Apps Script (GAS) によって、「②」で特定の列のセルに値が入力された場合、Gemini の API を呼び出し、Gemini から応答を得るようにしておく。 ④ GAS によって応答結果を生徒にメールで送信すると同時に、ログを Google Sheets に記録する。 <p>このようにして、生徒一人ひとりに生成 AI のサブティーチャーがつくような形とすることで、一人の教員が一斉に多数の生徒に添削指導をしなければならないという状況をなくし、最終提出物を総括的に扱うだけで済む設計とした。なお、最終段階の評価及び指導においては、応答のログを蓄積しておくことで、ただ完成物のみを参照するのではなく、生徒の学びの形成過程を適切に判断材料とすることができるようにした。</p>			
活用場面			
設計・試作段階として想定される活用場面を以下に記す。なお、いずれも生徒による活動である。			
① Forms に添削希望の文章を入力する。	 <p>(図1)</p>		
② 生成 AI による添削をメールで受信する。	 <p>(図2)</p>		
③ さらにブラッシュアップしたものを Forms で送信する。※以下①と②を繰り返す。	<p>図1</p> <p>図2</p>		
授業者のコメント・児童生徒の主な反応等			
<p>保護者から同意書を得たり、Forms を利用するためのMicrosoft 365 アカウントのログイン指導の徹底をしたりすることで、今後の実践運用に向けて環境整備を進めていきたい。また、生徒にとっての利便性向上のために、チャットボット形式への変更も検討中である (Copilot Studio のライセンスが付与された場合)。</p>			